

説明資料(第2稿)での記載箇所		章項目	5.3.1	ページ	P.39	行	15行目
事業名	上野遊水地事業		河川名	木津川上流			
府県	三重県	市町村	上野市		地先	上野地区	

**現状の課題**  
 木津川の岩倉峡上流の上野地区では、狭窄部が支障となっており、浸水が生じやすい地域である。

**河川整備の方針**  
 狭窄部の開削は、下流への流量増により破堤の危険性を増大させる為、下流の破堤の危険度を増大させないという観点から、下流の河川整備の進捗状況等を踏まえて実施の判断を行う。  
 狭窄部上流においては浸水被害の軽減に向けた整備を行う。

**位置図**

上野遊水地

**具体的な整備内容**  
 ・上野遊水地を継続実施する。

**事業の数量 諸元等**  
 越流堤・排水門 4遊水地(各遊水地1箇所)  
 堤防完成 L= 10.3 km  
 ・うち整備計画期間内の数量 諸元等  
 越流堤・排水門 4箇所(各遊水地1箇所)  
 堤防完成 L= 10.3 km

**事業費**  
 ・全体事業費 約717億円  
 ・うち執行済 約460億円  
 ・うち整備計画期間内 約257億円  
 ・うち整備計画期間以降 0円

**スケジュール**





H15	H17	H19	H21	H23	H25

■ 検討  
■ 試行  
■ 実施

平面図 (機構図、体制図)

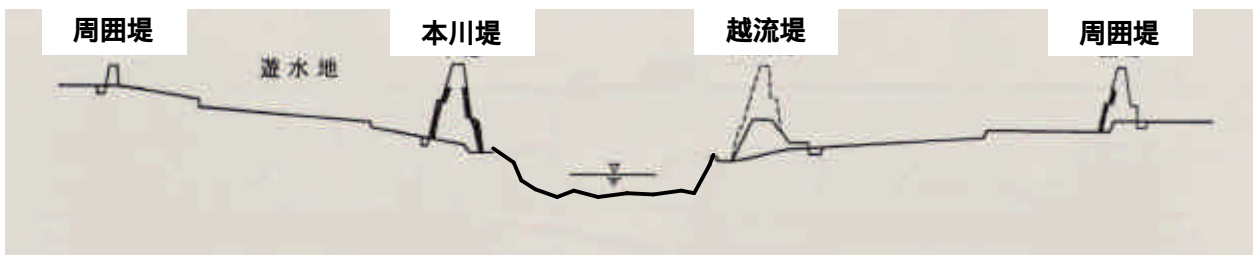
上野遊水地残事業



	排水門 (未施工)
	越流堤 (未施工)
	本川堤 (未完成)
	周囲堤 (完成)

横断面図 (構造図、フローチャート)

遊水地断面図

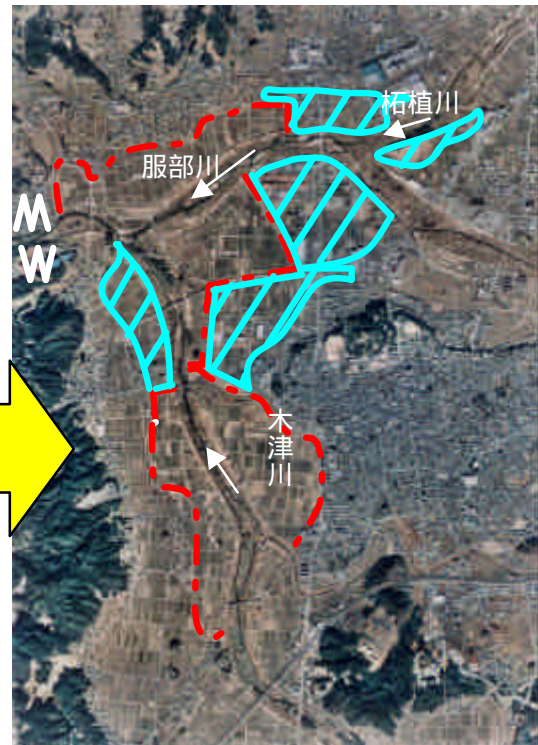
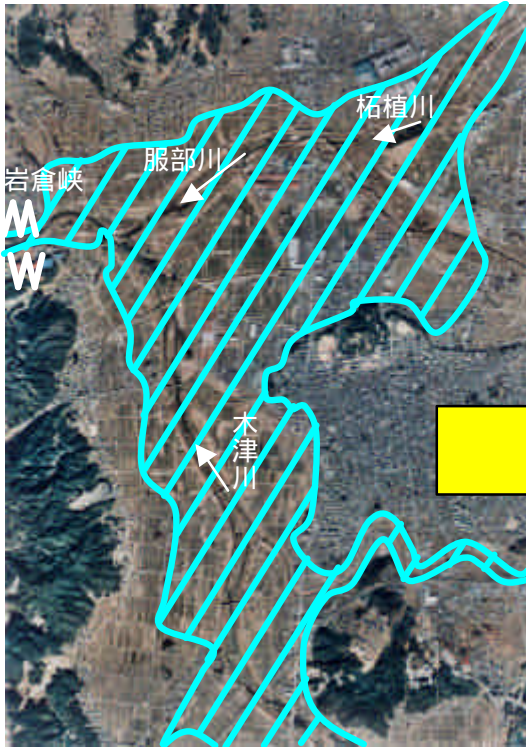


整備効果

現況

- 上野地区は、岩倉狭窄部上流に位置し、このため洪水常襲地帯である。
- 上野遊水地計画は昭和44年より着手され、平成14年度末で周囲堤が概成し、越流堤、排水門、水路等が未施工であり継続実施を行う必要がある。

昭和28年13号台風



実績

遊水地完成後  
(想定氾濫区域)

●浸水面積540ha

想定氾濫被害

- 浸水面積 206ha
- 平均浸水深 1.656m
- 想定被害額 303億円

課題

- 上野地区は、上野遊水地が完成しても既往最大規模の洪水に対して**浸水被害は解消されない。**

## 提案理由 (代替案含む)

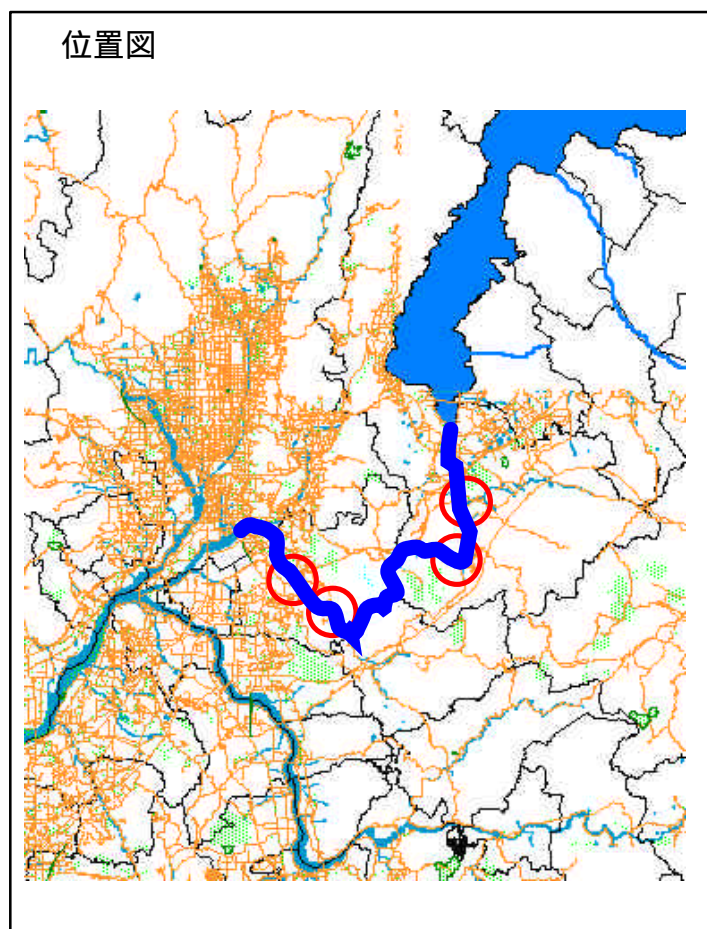
## 提案理由

- ・上野地区は、昭和20年～昭和40年に度重なる洪水被害を被った。
  - ・上野地区の洪水被害の要因である岩倉峡開削は、下流への流量の増加による負担を増大させたため下流の整備が完了するまでは当面できない。
  - ・これより、上野地区の治水対策として上野遊水地と川上ダムが計画され、上野遊水地は昭和44年より遊水地に着手を行った。
  - ・上野遊水地完成すれば、既往最大規模の洪水浸水被害540haに対して約200ha(184～206ha)まで浸水被害が軽減される。
- 昭和44年より着手され以来34年が経過し、現在周囲堤が概成したが、越流堤・排水門等が未施工であり継続する必要がある。
- ・上野市・地元地区は、上野遊水地完成を待ち望んでいる。
- 遊水地は他の貯留施設に比べて河川への影響が少ない。

説明資料(第2稿)での記載箇所		章項目	5.3.1.(2)	ページ	p.39	行	26行目
事業名	琵琶湖沿岸の浸水被害の軽減		河川名	瀬田川、宇治川			
府 県	滋賀県、京都府	市町村	大津市～宇治市		地先		

**現状の課題**  
 下流部が危険な時は、下流の洪水防御のため、瀬田川洗堰からの放流を制限もしくは全閉している。その後、洗堰を全開して、上昇した琵琶湖水位を速やかに低下させる(後期放流)ようにしている。しかし、瀬田川下流部にある狭窄部、天ヶ瀬ダムの放流能力及び宇治川の流下能力不足が支障となり、放流量が限られ、その結果湖周囲では長時間にわたる浸水被害が発生している。

**河川整備の方針**  
 琵琶湖沿岸の浸水被害の軽減  
 瀬田川下流部にある狭窄部(鹿跳溪谷)、天ヶ瀬ダムの放流能力不足及び宇治川の流下能力不足により発生する長期にわたる琵琶湖の高水位による浸水被害の軽減を図るため、瀬田川下流部の流下能力(放流能力)の向上を図る。



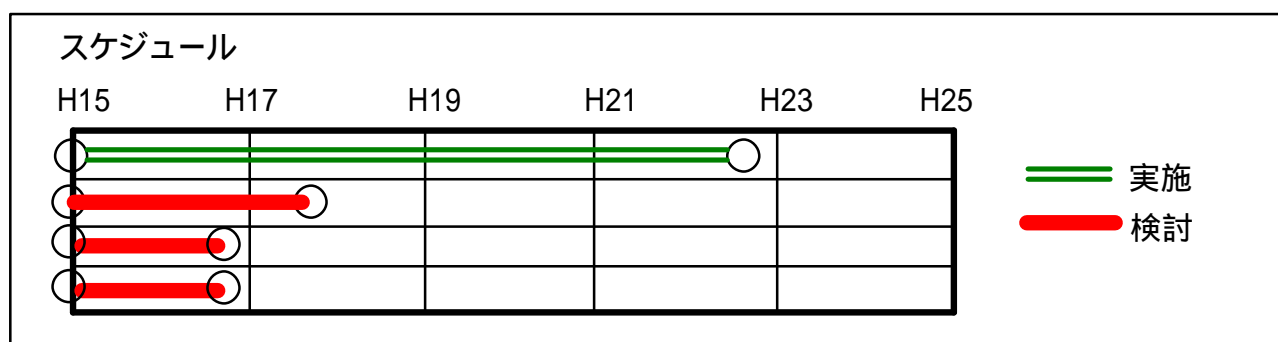
**具体的な整備内容**

**宇治川**  
 琵琶湖後期放流に対応するための、天ヶ瀬ダム再開発計画の調査検討を行う。その結果及び河川整備の進捗状況を踏まえ、「塔の島」地区の河道掘削の実施時期を検討する。

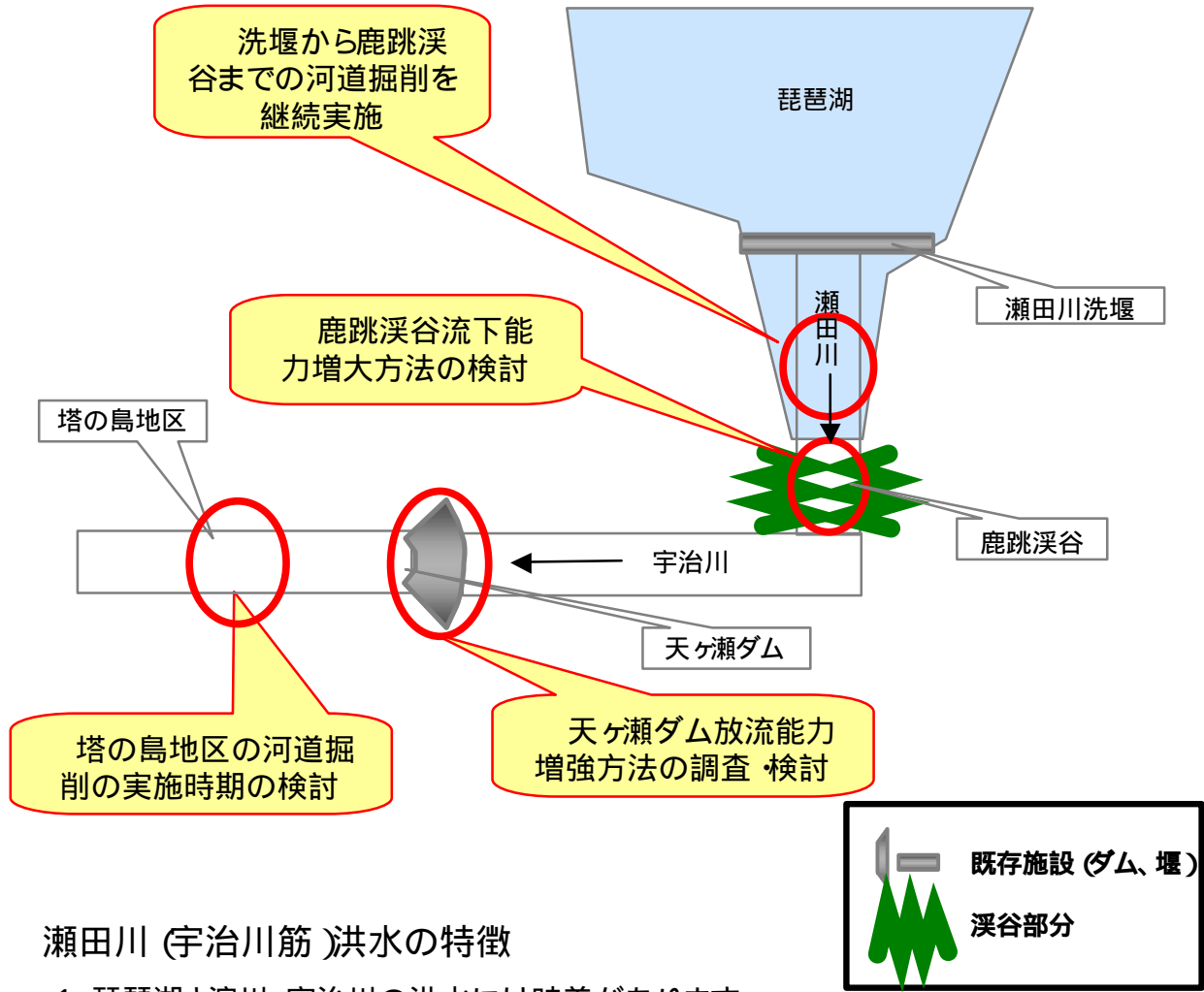
**瀬田川**  
 琵琶湖からの放流量を増大させるため、洗堰から鹿跳溪谷までの河床掘削を継続実施する。  
 琵琶湖からの放流量を増大させるため、景勝地区である瀬田川下流(鹿跳溪谷地区)の流下能力の増大方法を環境、景観の両観点から検討する。

**事業の数量 諸元等**

瀬田川下流掘削 1.6km  
 (岩掘削 10万m<sup>3</sup>、土掘削 27万m<sup>3</sup>)  
 鹿跳溪谷区間 1.4km  
 天ヶ瀬ダム再開発計画  
 宇治川河道掘削 1.3km  
 (掘削土量 約14万m<sup>3</sup>、平均掘削高1.1m)

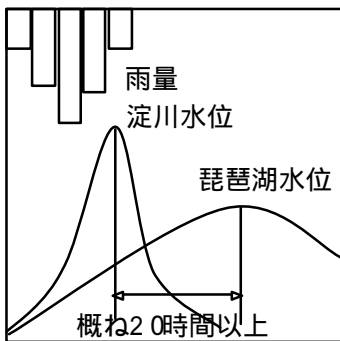


位置図



瀬田川(宇治川筋)洪水の特徴

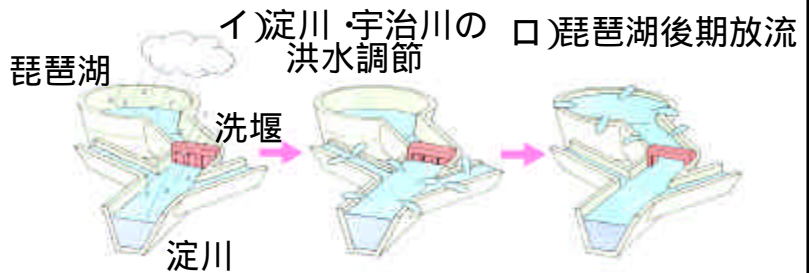
1. 琵琶湖と淀川・宇治川の洪水には時差があります。



琵琶湖は大きいので、水位上昇はゆるやかです。下流淀川の水がピークを過ぎ、減り始めてから琵琶湖の水がピークとなります。

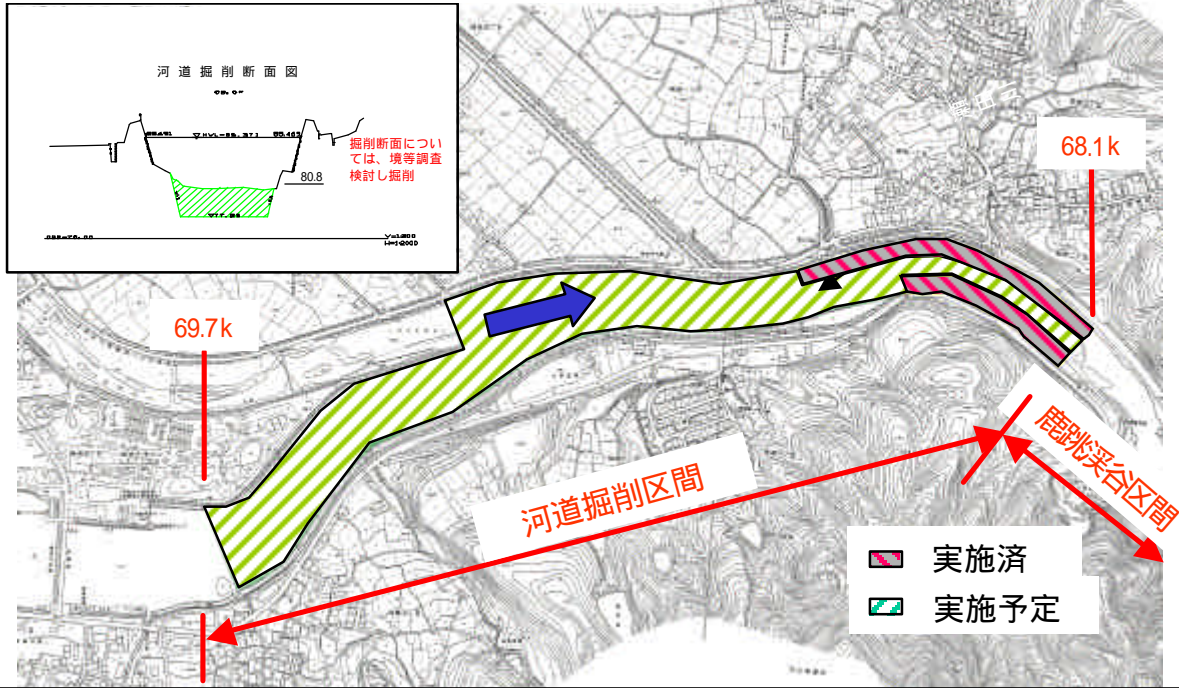
2. 瀬田川洗堰は、琵琶湖と淀川・宇治川の洪水時差を利用して、次の操作を行います。

- イ) 淀川・宇治川の洪水調節
- ロ) 琵琶湖後期放流

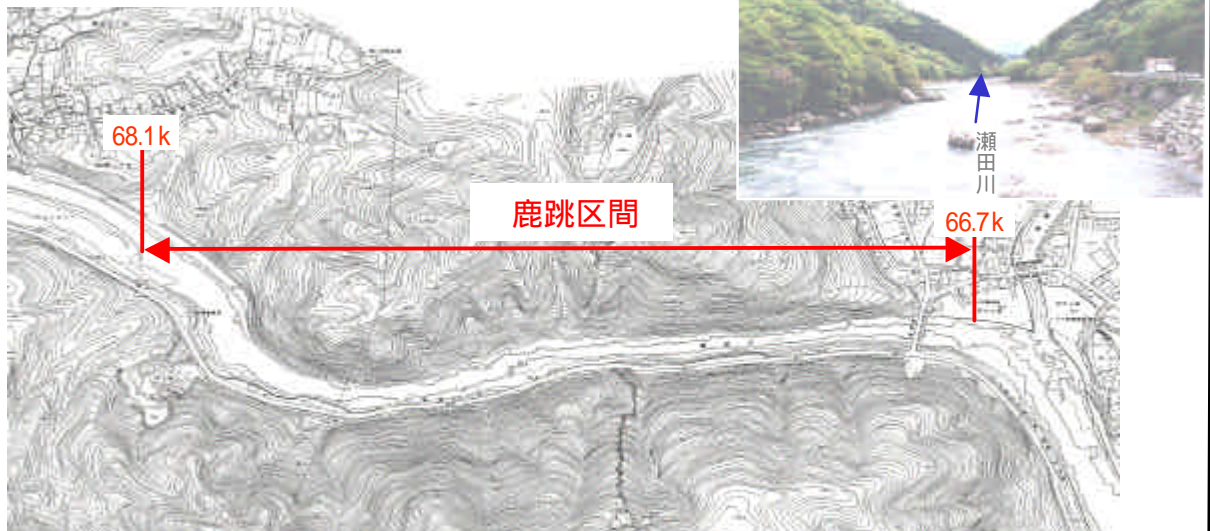


琵琶湖後期放流に対して、一連区間を1,500m<sup>3</sup>/s河道とする。

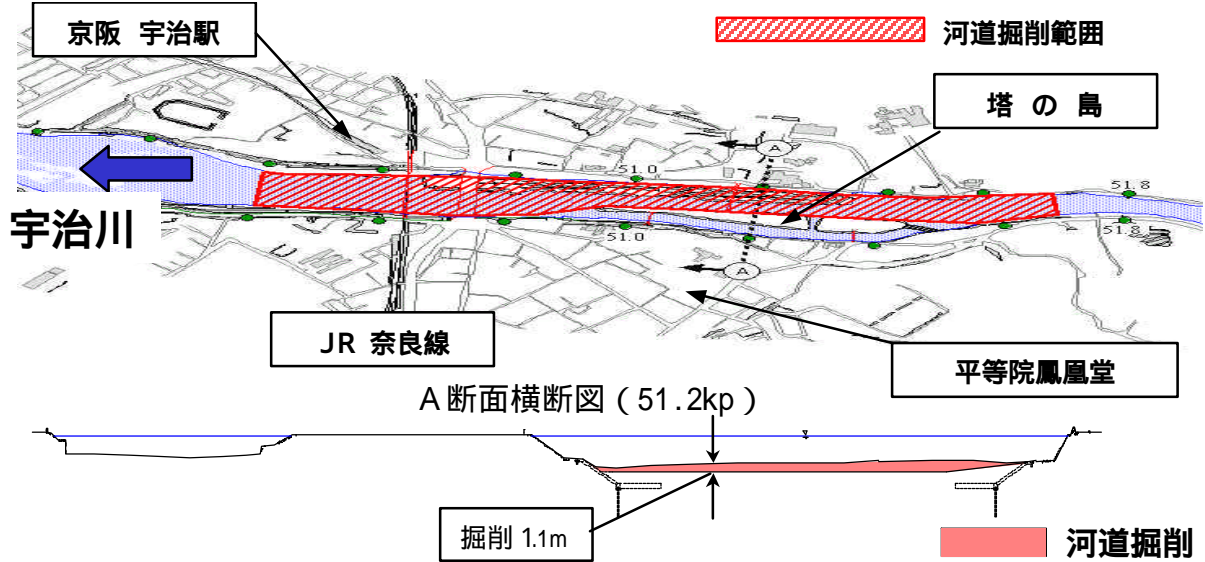
河道掘削平面図及び横断面図 ( )



鹿跳溪谷平面図 ( )

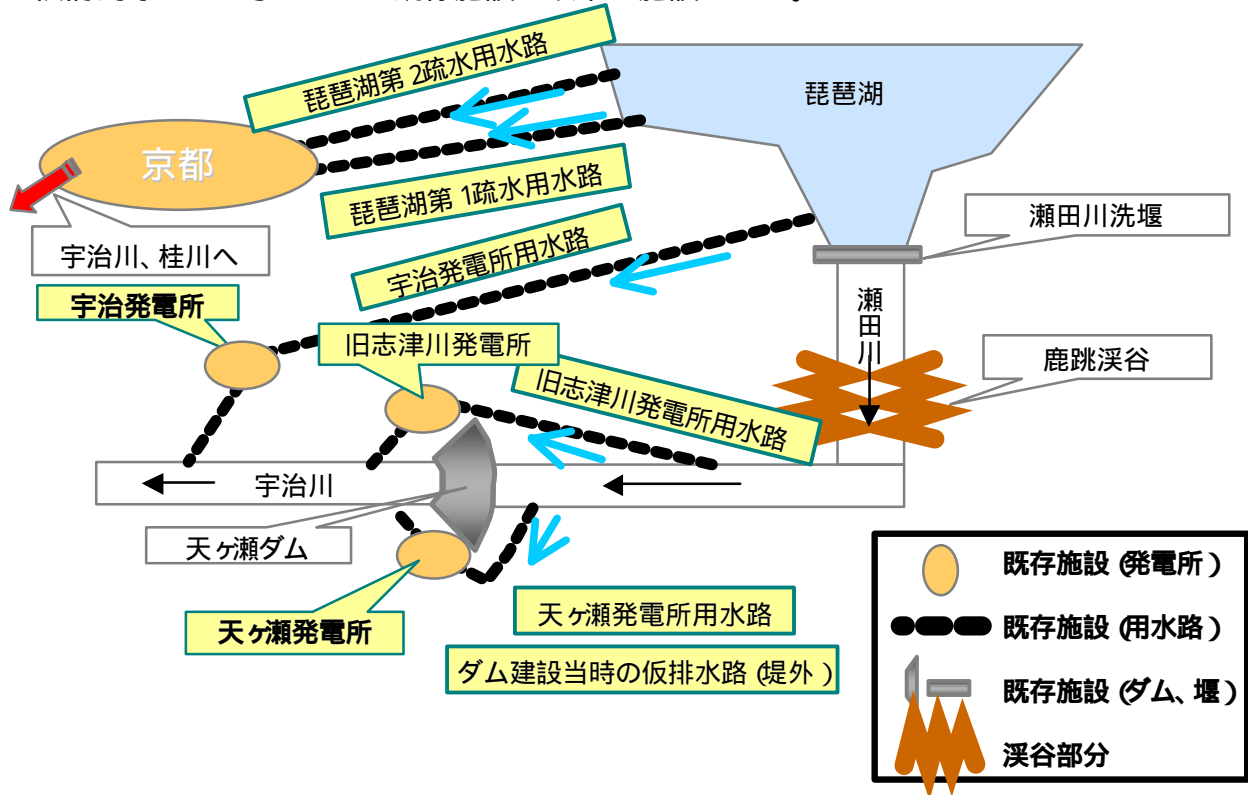


塔の島平面図及び横断面図 ( )



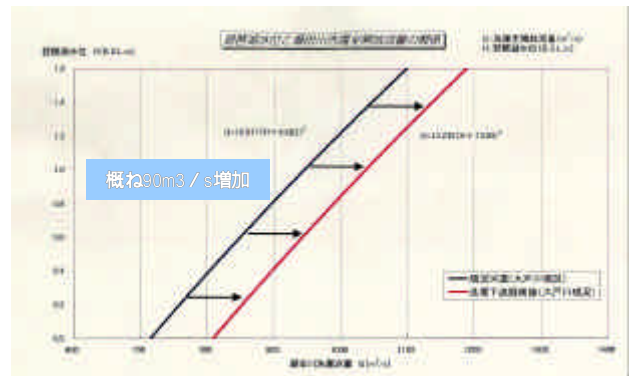
### 琵琶湖から流れでている既存施設

天ヶ瀬ダム放流能力増大方策として、既存施設を活用した方法の検討を行う。検討対象として考えられる既存施設は以下の施設である。



### 瀬田川洗堰下流河道掘削 ( )

現況において、河床掘削を継続実施することにより約90m<sup>3</sup>/sの流下能力の増大が図れ早期の水位低下及び浸水時間の短縮に効果を発揮。



### 鹿跳溪谷 ( )

瀬田川下流の流下能力の増大方法を環境、景観の両観点から検討し早急に対応する必要がある。

現 状

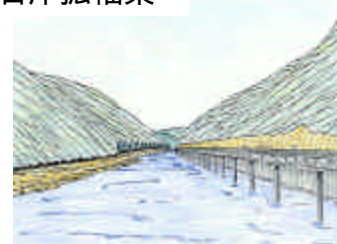


景観のイメージパース

河床掘削案



右岸拡幅案



### 天ヶ瀬ダム再開発事業 ( )

下流の流下能力まで増大させるため、天ヶ瀬ダム放流能力増大方策として既存施設を活用した放流方法の検討を行う。

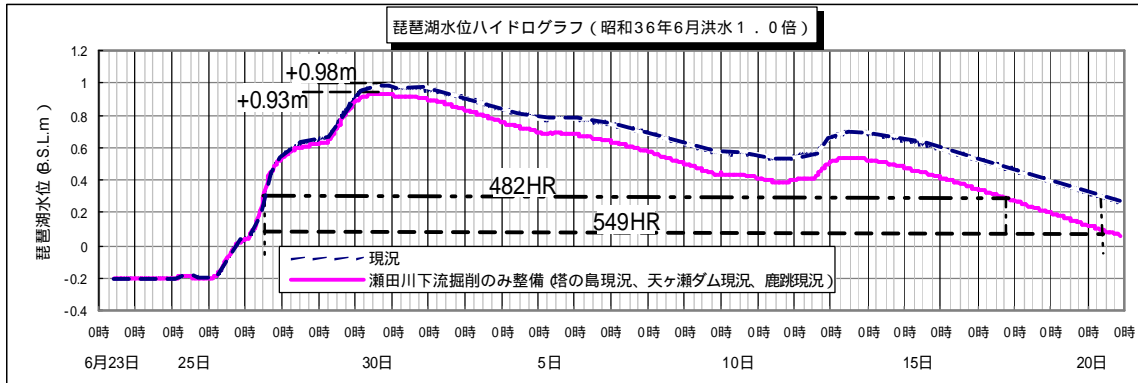


個々の整備効果

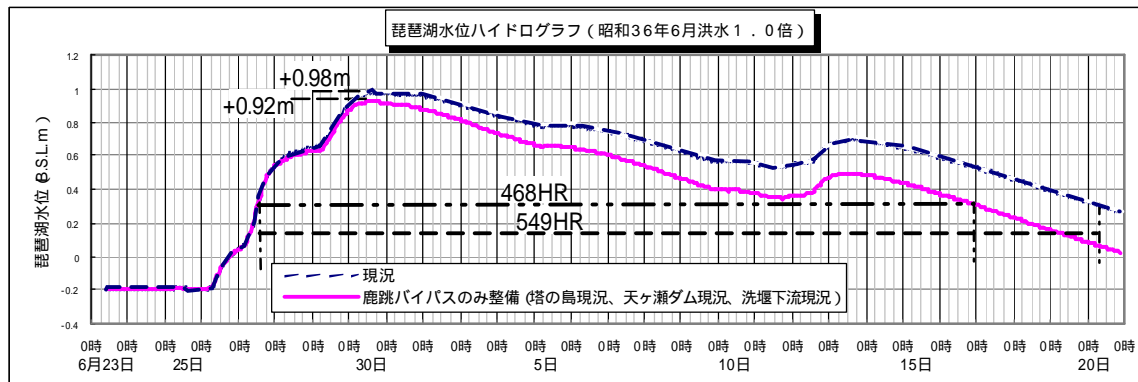
河道掘削のみ (69.7k ~ 67.8k)	ピーク水位 (B.S.L.m)			浸水時間 (H>0.3) (HR)		
	現況	洗堰下流掘削のみ	効果	現況	洗堰下流掘削のみ	効果
昭和36年6月 洪水1.0倍	0.98	0.93	0.04	549	482	67

鹿跳改修のみ (68.2k ~ 66.7k)	ピーク水位 (B.S.L.m)			浸水時間 (H>0.3) (HR)		
	現況	鹿跳改修のみ	効果	現況	鹿跳改修のみ	効果
昭和36年6月 洪水1.0倍	0.98	0.92	0.05	549	468	81

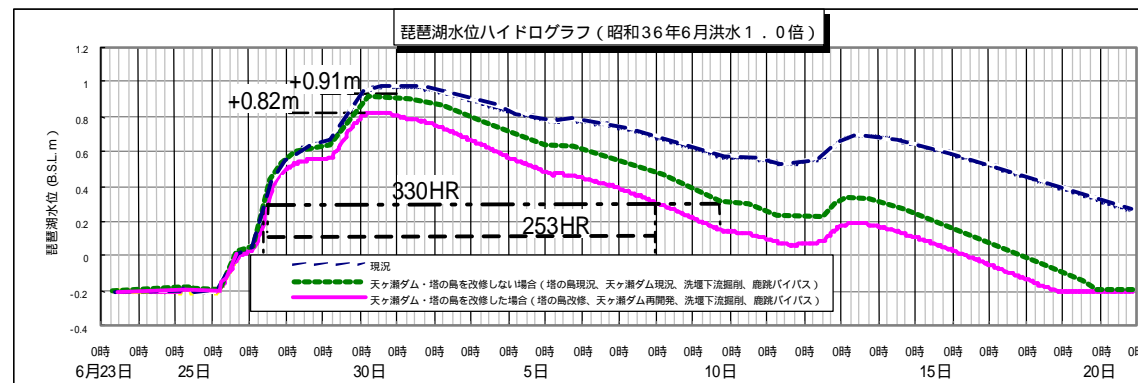


現況に対して河道掘削 ( )のみを行うことにより、  
琵琶湖水位が0.04m下がり、浸水時間が67時間減る。



現況に対して鹿跳で改修 ( )のみを行うことにより、  
琵琶湖水位が0.05m下がり、浸水時間が81時間減る。

上流完成後 天ヶ瀬・塔の島のみのみ	ピーク水位 (B.S.L.m)			浸水時間 (H>0.3) (HR)		
	天ヶ瀬 塔の島のみのみ現況	フルメニュー	効果	天ヶ瀬 塔の島のみのみ現況	フルメニュー	効果
昭和36年6月 洪水1.0倍	0.91	0.82	0.09	330	253	77

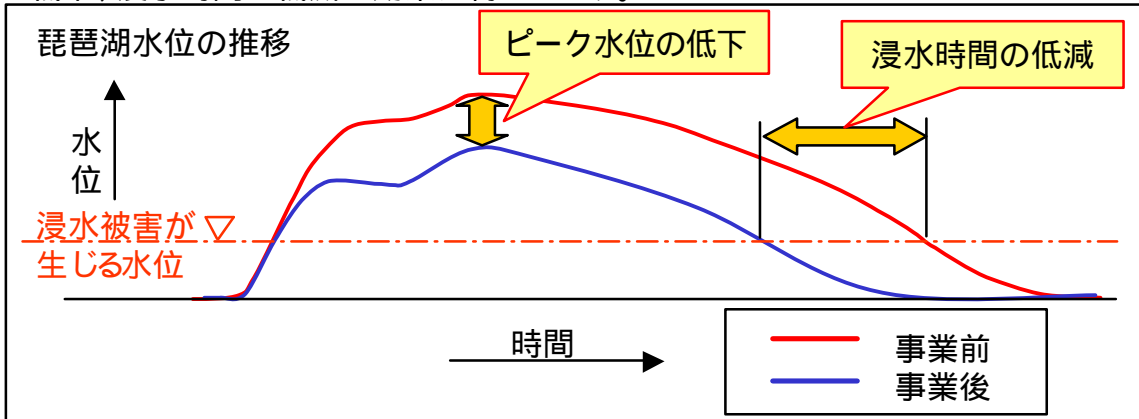


・上流 (洗堰下流 ( )及び鹿跳 ( ))完成の現況に対して天ヶ瀬及び塔の島の改修を行う( , , )  
ことにより、琵琶湖水位が0.09m下がり、浸水時間が77時間減る。

### 整備効果

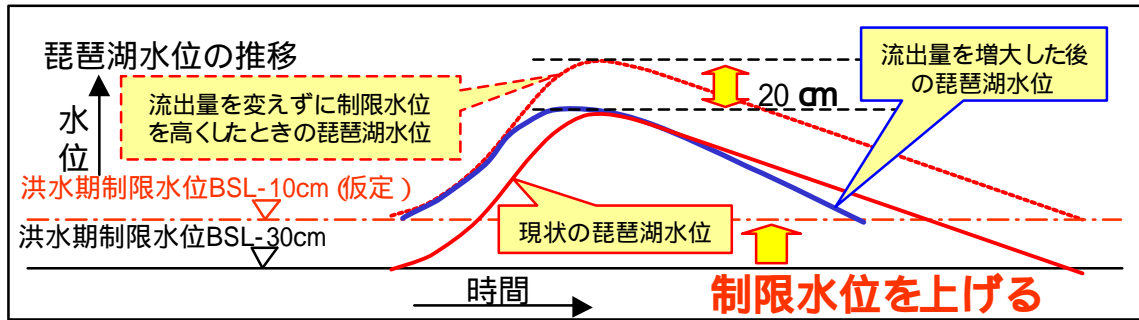
## 琵琶湖沿岸の浸水被害の軽減

瀬田川・宇治川の狭窄部及び天ヶ瀬ダムの放流能力を増強することにより、琵琶湖水位の低下、浸水時間の低減の効果が得られます。

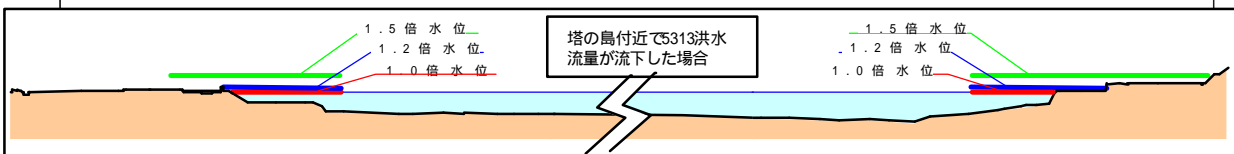
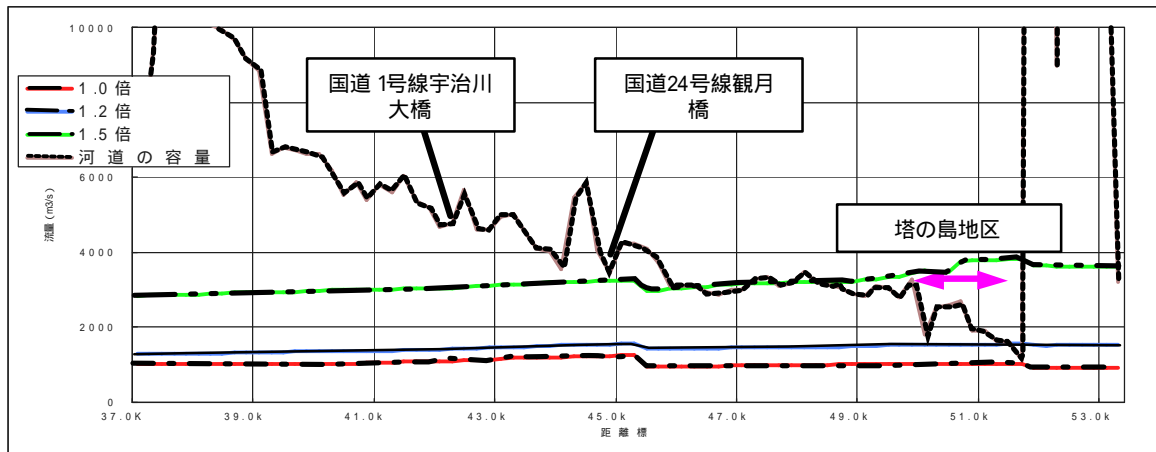


## 琵琶湖環境改善の可能性

琵琶湖からの流出量を増強することにより、洪水期の制限水位を上げたとしても、従前と同等のピーク水位とすることができるよう可能性があります。



## 塔の島付近の現況



## 宇治川の中で塔の島付近が一番流下能力がない

塔の島付近の治水安全度向上 流下能力の向上

現況 約1100m<sup>3</sup>/s 約1500m<sup>3</sup>/s

## 提案理由 (代替案含む)

### 琵琶湖沿岸の浸水被害の軽減に対する代替案比較

琵琶湖の高水位による浸水被害を軽減する方法として以下の方法が考えられます。

制限水位を下げる

- …琵琶湖の生態系及ぼす影響や利水面の問題から採用は困難

ダム・遊水地

- …広大な土地や莫大な予算が必要であり、また、完成までに長期間を有することから採用は困難

内湖復活

- …干拓内湖の現状の土地利用や内湖の新たな掘削が必要となることから、代替案としての採用は困難

水田貯留

- …大規模な用地補償が必要となり、また、生産性にも大きく影響することから、代替案としての採用は困難

森林の整備

- …流域の中で森林を現状以上に増加させることは土地利用の観点から、代替案としての採用は困難

洗堰の全閉、放流制限を止める

- …下流の堤防の破堤の危険性が增大し、また、浸水頻度も増大することから採用は困難

湖岸堤の新設、内水排水ポンプの新設・増強、地上げ

- …水陸移行帯の減少や、ポンプ能力規模を越える洪水に対しては十分な効果が発揮できない

また、湖岸堤、内水排水ポンプの新設・増強が必要となり、コストがかさむ

以上により、現段階では **瀬田川～宇治川の流下能力増大**が琵琶湖の高水位による浸水被害の軽減に対して有効であると考えています。

なお、琵琶湖の浸水被害軽減のためには、以下のことも重要です。

生物の生息・生育環境として重要な内湖・湿地帯等の再生・復元を目指すため、関係機関と調整・連携します。

流域内における保水・貯留機能の保全、増大方策として、森林、水田の保全や土地利用計画の見直しを目指すため、関係機関と調整・連携します。

提案理由 (代替案含む)

## 塔の島地区に対する代替案

### 河道掘削の必要性

宇治川洪水時、溢水頻度を少なくする

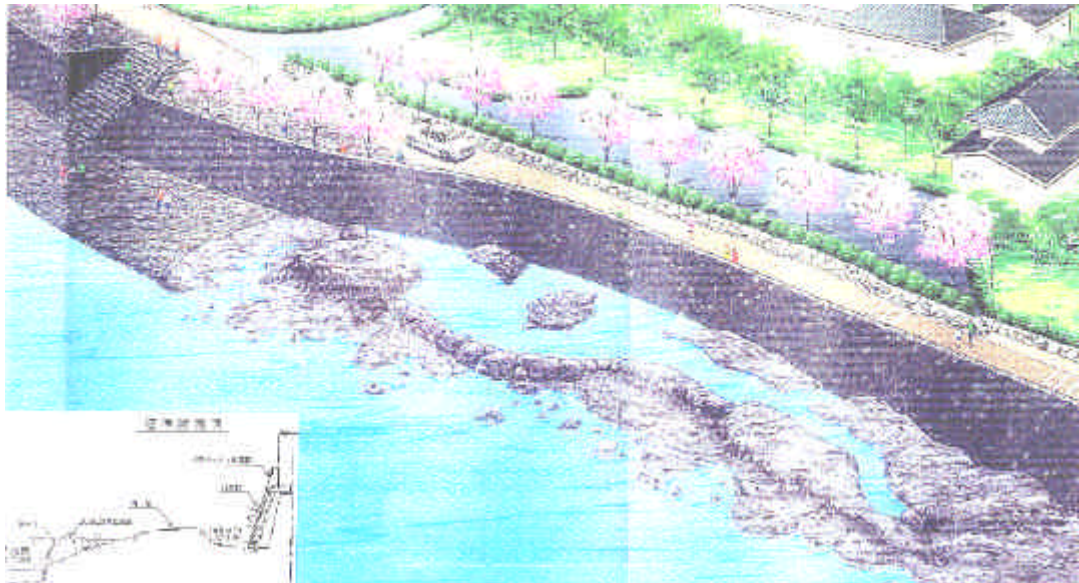
宇治川、淀川の洪水後、琵琶湖の水位をできるだけ下げ、琵琶湖からの放流量を増大させる

宇治市、地元関係者、学識経験者等の意見を聞きながら事業実施  
(塔の島河川整備検討委員会からの指摘)

・河道掘削 :平均 1.1m掘削とするなお、河道変動等に十分留意すべき

ナカセコカワニナ等の生態系保全のため、河岸付近を緩勾配にするなど、生態系の保全に配慮した断面とする

・亀石保全対策 :河道掘削後の様子を見て、その段階で詳細な評価を試みる



・鵜飼対策 塔の上流において、鵜飼が行われる区間は実施に困難を与えないような流速になる掘削手法とする

### 代替案

・流下能力上 :× 堤防嵩上げ案 被害ポテンシャルを増大させる

引堤案 人家密集地域でもあり 周辺地域への影響が大きく長期化

### 具体的な整備内容

天ヶ瀬ダム再開発見直しの検討結果及び下流の破堤対策の進捗を踏まえて、**景観、生態系、観光資源等に十分配慮し** 地域住民などへ十分な説明をした上で、河道掘削を実施